

## 総 括

鈴 木 泰

コードシステムの改進によって、コンピュータの区別できる文字の数は飛躍的に増大し、その結果、漢字が扱えるようになった。そして、それとともに出現した仮名漢字変換技術の完成が日本語ワープロを実現させた。それは、日本語の教育および学習の世界に多大の影響を与えることになる。少なくとも書くことに関しての学習者の負担は明らかに軽くなったが、一方で平仮名で正確に日本語を書くことが出来ることが不可欠な能力ともなった。こうした状況が、日本を含む漢字文化圏における漢字のあり方にどのようなインパクトを与え、学習・教育およびそれを支援する辞書の編纂や教材の開発にどのような影響をもたらすのかを、十分に見極めなければならない段階にきているといえよう。そこで、本分科会においては、文字、特に漢字をめぐる環境の変化とその方向を明らかにし、まさに変わり目にある現在において、変らないことは何か、そして変わったこと、変わろうとしていることは何かを、日本語教育の立場、非漢字文化圏の学習者の立場、日本以外の漢字文化圏における漢字教育の立場、そして締めくくりとしてコンピュータと遭遇した漢字について文字論的な立場から見つめなおしてみた。

「日本語の単語習得と漢字」においては、外国人が漢字を学習する際には、まず漢字が単語を書き表す部品であることを理解しなければならないことが強調され、その理解なしには、せっかくのワープロも十分につかひこなすことができないとされる。また、ワープロ使用の普及によって、目的の単語に行き着くために必要な、ひらがなで正確に書ける訓練の重要性は、更に増していることが報告されている。

「スラブ語圏学習者から見た日本語の漢字の世界」においては、非漢字文化圏であるスラブ語を母国語とする日本語学習者にとって、漢字は日本語学習において最も手間のかかる場所であったが、インターネットの普及、各種ソフトの開発などによって漢字をめぐる環境は大きく変化しつつあり、将来日本語の教育及び学習に重要な影響を与えるであろうことが展望されている。

「韓国の漢字教育」においては、日本と同様漢字文化圏に属しているが、韓国人の日本語学習者は当然漢字・漢字語に関する基礎知識は持っているはずだということで、取り立てて漢字教育が行われていない上、日頃の言語生活における漢字の使用は「ハングル専用」や「インターネットの普及」などの影響でごく一部の範囲に限られており、実際の社会で漢字と接する機会も減ってきているので、日本語学習者の漢字能力はさほど高くないという問題が議論されている。

「コンピュータに選ばれた漢字」においては、まずコンピュータであつかう漢字の選定の方針にどのような変更があり、どのような方向に向かうかが示唆され、漢字がコンピュータによって扱われるようになって以来、文字の種類や形は、コンピュータで扱うことができるものが、他の規準にまさって標準となり、コンピュータで漢字を扱うことは、漢字あるいは文字の性格に影響を与え、漢字は書くものから、選ばれるものへと変わってきているとされる。